

Wolfgang Amadeus
Mozart
(1756~1791)



小倉貴久子の

モーツァルトの クラヴィーアのある部屋

「モーツァルトのクラヴィーアのある部屋」には毎回、モーツァルトと関わりのある作曲家等をひとりずつゲストとして迎えます。モーツァルトとゲスト作曲家のクラヴィーアのソロ作品、またピリオド楽器奏者と共にお届けする室内楽、連弾、歌曲など、お話を交えながらのコンサートです。18世紀にタイムスリップしたかのようなひととき、「モーツァルトのクラヴィーアのある部屋」にみなさまをご案内いたします！

《第31回》2018年3月26日(月)午後7時開演(開場6:30)

C.Ph.E.バッハ Carl Philipp Emanuel Bach [1714-1788]

小倉貴久子(クラヴィーア)

C.Ph.E.バッハ:「音の肖像画」Wq.117より「ペーマー」/練習曲集よりソナタ Wq.63-1/
変奏繰り返しつきのソナタ 短調 Wq.50-3/「スペインのフォリア」による変奏曲 Wq.118/9/
わがジルバerman クラヴィーアとの別れのロンド Wq.66/C.Ph.E.バッハの感情~自由なファンタジー Wq.67
モーツァルト: 小品 へ長調 K.15t/プレアンブルム K.deest/
「美しいフランソワーズ」による変奏曲 K.353/ファンタジー 短調 K.475/ソナタ 短調 K.457

第31回の使用楽器: Clavichord made by Kenta Fukamatti after Ch.G.Hubert [1770s]

《第32回》2018年5月22日(火)午後7時開演(開場6:30)

G.バイジエロ Giovanni Paisiello [1740-1816]

小倉貴久子(クラヴィーア)・彌勒忠史(カウンターテナー)

G.バイジエロ: 歌劇《哲学者気取り》より「主よ幸いあれ」/
歌劇《セヴィリヤの理髪師》より序曲、「私はランドール」「その時が近づいています」/6つのソナタより
モーツァルト: 小品 二短調 K.15u/歌劇《フィガロの結婚》より「自分で自分がわからない」
「恋とはどんなものかしら」/「クローエに」K.524「夕べの想い」K.523「春への憧れ」K.596/
バイジエロの歌劇《哲学者気取り》より「主よ幸いあれ」による6つの変奏曲 へ長調 K.398/
ボードロン の歌劇《セヴィリヤの理髪師》より「私はランドール」による12の変奏曲 変長調 K.354

《第33回》2018年8月6日(月)午後7時開演(開場6:30)

E.T.A.ホフマン Ernst Theodor Amadeus Hoffmann [1776-1822]

小倉貴久子(クラヴィーア)・丸山 韶(ヴァイオリン)・島根朋史(チェロ)

E.T.A.ホフマン: クラヴィーアトリオ へ長調 AV52/クラヴィーアソナタ 長調 AV22
モーツァルト: 小品 へ長調 K.15v/ヴァイオリンソナタ 長調 K.379/クラヴィーアトリオ へ長調 K.542

第31回~第33回の使用楽器: Fortepiano made by Chris Maene after A.Walter [1795]

近江楽堂

東京オペラシティビル3F

全席自由: 1回券 4,000円(学生2,000円)

3回セット券 10,000円「メヌエット・デア・フリーユゲル」及び「近江楽堂・松木アートオフィス」でのみ取扱い

後援: 日本モーツァルト協会/東京藝術大学音楽学部同声会
日本モーツァルト愛好会/(一社)全日本ピアノ指導者協会
協力: KiKla

■チケット発売・お問い合わせ■

メヌエット・デア・フリーユゲル(主催) ☎048-688-4921

klavier@kikuko-mdf.com

http://kikuko-mdf.com

近江楽堂 松木アートオフィス ☎03-5353-6937

■チケット発売■

東京オペラシティチケットセンター ☎03-5353-9999

イープラス e+ http://eplus.jp/

《第31回》C.Ph.E.バッハ

大バッハの次男として生まれたカール・フィリップ・エマヌエル・バッハ。「彼は父であり、われわれは子供である」とモーツァルトは尊敬し、11歳の時にはエマヌエルの作品をクラヴィア協奏曲K.40の第3楽章に編曲。C.Ph.E.バッハの名著『正しいクラヴィア奏法』、ロンドやファンタジーなどの鍵盤作品は、モーツァルトに影響を与えています。

コンサートでは、繰り返し時の変奏を全て書き留めた「変奏繰り返し付きソナタ」「C.Ph.E.バッハの感情～自由なファンタジー」など、バッハ特有の独創的な作品と、モーツァルト渾身の力作ファンタジーK.475とソナタK.457、どちらも1778年に作曲された12の変奏曲、「美しいフランソワーズ」と「スペインのフォリア」を演奏。靈感やインスピレーションに優しく反応し、甘美な憂鬱、恋の悩み、別れの悲しみ、ファンタジーなどの表現に適した鍵盤楽器クラヴィコードとフォルテピアノによって、18世紀の偉大なる作曲家ふたりの天才的な個性が輝きます。

《第32回》G.バイゼットロ

国際的な影響力を誇った作曲家バイゼットロは、オペラの都市ナポリで頭角を現し、その後エカテリーナIIの宮廷で活動。ナポリに戻り王室楽長・宮廷作曲家として不動の地位を手に入れますが、フランス革命後の後半生は激動の波にのまれてゆきます。ナポレオンの寵愛を得てパリに招かれるも短期間で帰郷。ナポリ共和制下では責任ある地位を得ますが、王政復古期には宮廷から冷遇されます。1783年にウィーンでバイゼットロの《セヴィリヤの理髪師》が初演され大人気。モーツァルトの《フィガロの結婚》(1786年)は、その続編が意識されていて、音楽も影響を受けています。皇帝ヨーゼフIIの御前でクレメンティと競演した際、ロシア大公夫妻から「我がバイゼットロのソナタを弾いて」と請われ演奏。ブルグ劇場での大演奏会の折にも、バイゼットロのオペラの一節を変奏曲にしたり、ウィーン滞在中のバイゼットロを演奏会に招くなど、モーツァルトは敬意の念を抱いていました。

《第33回》E.T.A.ホフマン

ドイツ・ロマン派を代表する文学者エー・テー・ア・ホフマンの同時代作曲家への的を射た音楽批評は、今でも引用されています。小説『クライスレリアーナ』はピアノ曲「クライスレリアーナ」を生み出すインスピレーションをシューマンに与えました。本職は裁判官でしたが、その多才さは驚くばかりで、歌劇場の演出や画業までこなしました。しかし彼にとっては音楽こそが特別で、音楽家として名を残すことが夢でした。親が名付けたキリスト名を「アマデウス」に自身で差し替えるほどのモーツァルト好き。特に第39番 変木長調のシンフォニーがお気に入り、ホフマンはこれに倣ってシンフォニーを書いています。

バンベルクの劇場で作曲家として雇われていた時に書かれた充実のピアノトリオ、モーツァルトへの憧憬を感じさせるソナタと共に、ドラマティックなヴァイオリンソナタ K.379、ミュースの微笑みを感じる端正な佇まいと美の調和のトリオ K.542をお楽しみいただけます。



小倉貴久子 クラヴィア
Kikuko Ogura

東京藝術大学を経て同大学大学院ピアノ科修了。アムステルダム音楽院を特別栄誉賞を得て首席卒業。日本モーツァルト音楽コンクール、ピアノ部門第1位。ブルージュ国際古楽コンクール、アンサンブル部門及びフォルテピアノ部門第1位と聴衆賞受賞。様々なコンサートシリーズを展開する一方、音楽祭やテレビへの出演も数多い。浜松市楽器博物館コレクション

シリーズの録音での演奏も高い評価を得ている。これまでにCDを40点以上リリース。それらの多くが各新聞紙上で推薦盤、「レコード芸術」誌で特選盤に選ばれている。平成24年度文化庁芸術祭レコード部門(大賞)受賞。著書にカラー図解『ピアノの歴史(CD付き)』(河出書房新社)他。東京藝術大学古楽科非常勤講師。第86回日本音楽コンクールピアノ部門の審査員を務める。近著(共著)にONTOMO MOOK「フォルテピアノから知る古典派ピアノ曲の奏法」。



彌勒忠史 カウンターテナー
Tadashi Miroku (第32回出演)

平成24年度(第63回)芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。千葉大学大学院修了。東京藝術大学卒業。CD「No early music, No life?」(朝日新聞推薦盤)など。著作『イタリア貴族養成講座』(集英社)、『歌うギリシャ神話』(アルテス・パブリッシング)など。NHKラジオ・イタリア語講座講師。在日本フェッラーラ・ルネサンス文化大使。二期会会員。



丸山 韶 ヴァイオリン
Sho Maruyama (第33回出演)

京都市立芸術大学を首席卒業。東京藝術大学古楽科修了。鎌倉市音楽コンクール総合第1位、高文連ソロ・コンテスト総合第1位。バッハ・コレギウム・ジャパン、古楽アンサンブルコントラポントのメンバー。古楽オーケストラ《La Musica Collana》、古楽アンサンブル《Ensemble LMC》を主宰。煌びやかで魅力的な彼のヴァイオリンに今、各方面から熱い視線が注がれている。



島根朋史 チェロ
Tomofumi Shimane (第33回出演)

パリ7区音楽院修了。現在、東京藝術大学博士課程在籍。アカンサス音楽賞受賞他、受賞歴多数。フランスではソロリサイタルや、ヴェルサイユ王室礼拝堂等の教会コンサートに多数出演。古楽オーケストラ《La Musica Collana》首席奏者、弦楽アンサンブルTGSメンバー。チェロ四重奏Casty 1st奏者。全ての活動でガット弦の楽器を使用する、バロック・古典・現代の三刀流チェロ奏者。

予告

《第34回～第36回》ゲスト作曲家

A.エーベルル
Anton Eberl [1765-1807]

G.Ch.ヴァーゲンザイル
Georg Christoph Wagenseil [1715-1777]

T.W.v.デュルニッツ
Thaddäus Wolfgang von Dürnitz [1756-1807]

近江楽堂

(京王新線「初台」駅下車、オペラシティ方面出口3分)

〒163-1407 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティ3階

☎ 03-5353-6937(近江楽堂・松木アートオフィス)